

「デフフードについて」学習指導略案

1 対象

同校(聾学校)の教員
または聾学校教員が集まる勉強会

2 指導の形態

一斉講義
ディスカッション
(1時間～2時間ほど)

3 指導の目的

- 1) より多くの聾学校の教員がデフフードという概念を知る。
- 2) 聾学校の教員個々が授業作りをするにあたって単元とデフフードをどのように関連づけられるか考える。
- 3) デフフードを取り入れた授業の普及

4 指導にあたって

- ・デフフードに詳しいと思われる宮城教育大学準教授の松崎先生や大宮ろう学園教諭の戸田先生などを講師に招くことができると尚良い。
- ・スライドの資料を配布する。
- ・ディスカッションを行う。
- ・教員対象のため、評価項目は削除する。

5 本時の内容

過程	学習活動	指導・支援内容 (留意事項及び配慮事項)
導入 20分	デフフードについての説明を聞く。 ・誰が考案したのか ・デフフードの考え方は	専門家ではないので、基本的な説明になることを了承してもらう。 説明は松崎先生の note の記事より抜粋。一部図を作成した。 PPT のノートに記事本文を引用したため説明の際の参考にする。 ※Deafhood の hood について、接尾辞の名刺語尾の場合には、「性質・状態・階級・身分・境遇などを表わす。」とあるので、「ろう者の状態」を意味すると考えられる。
展開 20分	朝霞市社会福祉協議会が YouTube で配信した、動画「ろう教育 Part1, Part2」(それぞれ 4:49, 5:59 なので合わせて 10 分ほど)について視聴、あるいは日本語訳の資料(資料①)を読む。 大宮ろう学園の実践例が記載された資料②を読む。	日本手話に不慣れな参加者がいる場合は、資料②を読んでいただくようお願いする。 スライド 5 までが松崎先生の考え方をまとめたもの(あくまで講義者の考え方と誤解を与えないように留意する)、スライド 6 はデフフードを取り入れている埼玉の聾学校の先生の考え方、スライド 7 は実践例を元に自分の授業作りの再考を促すという流れである。 【補足】 特権ディスコースはオーディズムに通じるところがある。説明の際に関連づけることも可能。
まとめ 80分	資料②をもとに(必ずしも準じる必要はない)、自身の担当している教科が同じ者同士でグループを作り、デフフードを取り入れた授業の例について考案し合い、ディスカッションを行う。 最後にグループのディスカッションの成果を全体に発表する。 余裕があれば発表ごとに意見やコメントを募る。	

6 参考文献または Web サイト

宮城教育大学 松崎丈先生 (note)

<https://note.com/matsuzaki.jo/n/nc71cc69f10b9>

戸田康之さん『ろう教育 Part.1』

<https://www.asaka-shakyo.or.jp/shisetsu/sougou/data/20201026.pdf>

戸田康之さん『ろう教育 Part.2』

<https://www.asaka-shakyo.or.jp/shisetsu/sougou/data/20201102.pdf>

YouTube 朝霞社協 公式チャンネル「ろう教育 Part1」

<https://www.youtube.com/watch?v=rBF7sx8id4&t=6s>

YouTube 朝霞社協 公式チャンネル「ろう教育 Part2」

<https://www.youtube.com/watch?v=AWgf88hXPiU>

作成：下森 めぐみ (2021年)

編集：ろう者学教育コンテンツ開発取組担当

【資料のダウンロード】

本学習指導略案 (PDF)

資料①パワーポイント (PPTX)

資料②「戸田先生ろう教育」 (PDF)

資料③「デフフッドの例」 (PDF)

映像：パディ・ラッド博士「Deafhood (デフフッド) とは」(映像の視聴にはパスワードが必要になります)